

「日経お役立ちニュース」は日本経済新聞をお届けしている新聞販売店がお届けしています。

ニュース

ニュース再チェック!

好調な輸出と堅調な雇用環境、日経平均株価は2万円台を回復し、緩やかな景気回復が続いています。しかし、経済の体温を示す潜在成長率は日銀の推計で0.69%と下がり続け、経済は低体温状態が続いています。

6月9日、「経済財政運営と改革の基本方針2017」（骨太の方針）が経済財政諮問会議の答申を経て、閣議決定されました。骨太の方針は予算編成を進める基本方針。それまで大蔵省(当時)が握っていた予算編成の主導権を内閣に取り戻すために小泉政権から始まりました。

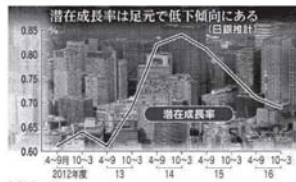
第2次安倍政権で5回目となる今回の骨太の方針の副題は「人材への投資を通じた生産性向上」。政府は働き方改革の推進で潜在成長率を底上げするとしています。今回の方針では幼児教育・保育の早期無償化や待機児童の解消、高等教育の負担軽減など、保育や教育分野を重点政策としています。しかし、その財源捻出は容易ではありません。社会保障制度改革としては薬価制度の見直しあげられています。高齢化の進展で増え続ける医療費を減らすことが狙いです。しかし、増加し続ける社会保障そのものの見直しや歳出削減、財政再建への踏み込みは不足気味です。

一方、停滞している経済の動きを活発にする成長戦略が同時に閣議決定された「未来投資戦略2017—Society5.0の実現に向けた改革—」です。あらゆるモノがインターネットにつながるIoTやAI(人工知能)による第4次産業革命の推進に軸足を置いています。戦略分野として、「健康寿命の延伸」「移動革命の実現」「サプライチェーンの次世代化」「快適なインフラ・まちづくり」「FinTech」の5分野をあげています。しかし、いずれも重要戦略といわれてきた分野で新鮮味には欠けています。

2017年3月末時点での銀行や信用金庫の預金残高は1,053兆円と過去最高となりました。行き場のないお金が積み上がった結果といえます。今回の骨太の方針と成長戦略で経済は低体温症から立ち直れるのでしょうか。

骨太方針決定

「安倍1強」生かせず



アベノミクス5年 経済の力低下

野田大蔵省時代、アベノミクス5年間の経済成長率は、平均して0.7%と、骨太の方針2017の潜在成長率0.69%を下回っている。これは、アベノミクス5年間の経済成長率が、平均して0.7%と、骨太の方針2017の潜在成長率0.69%を下回っている。これは、アベノミクス5年間の経済成長率が、平均して0.7%と、骨太の方針2017の潜在成長率0.69%を下回っている。

成長戦略、AIやIoTに重点

第4次産業革命を推進

政府が9日に決定した「移動革命の実現」など、報技術や自動運転など、既視感が強い項目も少なからず盛り込まれた。2020年に照準を合わせ、全体として小規模な戦略は、第4次産業革命の推進に軸足を置き、「健康・医療」の政策が目立つ。最新のIoTやAIを知る人々が、地域における「ボックス」制度だ。企業はIoTやAIを活用し、無人自動走行による移動の要請を受けて、自らが関係者を並べ、重点分野と動向を把握し、健康寿命の延伸を明記した。ただIoT(情)で迅速な実証を可能にする、市場を創出できるかどうかは、民間のアイデア次第というわけだ。民間の知恵を生かして、経済の底上げにつながる期待があるが、運用次第では役所の「恣意的」と批判されかねない。最近では規制緩和の目玉がなかなか見当たらず、企業と政治が霞が関の各省をめぐり、政策が注ぎ込まれる。

2017年6月10日 日本経済新聞朝刊5面(抜粋)

2017年6月10日 日本経済新聞朝刊5面(抜粋)

新聞(宅配) + 電子版

日経なら、Wプランが断然おトク!

毎月の新聞購読料に +1,000円 で、さらに特典も!



「日経W倶楽部」の特典

- TICKET: 美術展・イベントなど 無料招待・割引
- 会員限定: セミナー開催
- 書籍・グッズなど: プレゼント

「日経W倶楽部」の詳細はこちら <http://www.nikkei4946.com/nwc/>

日経W倶楽部 検索